

プラセンタと漢方薬が奏効した精神科の症例

ゆうメンタルクリニック(福岡県) 柳 受良

紫河車(胎盤、プラセンタ)は、精神科領域では不眠治療に薬効効果の報告があり、その他では冷え症の治療効果も認められている。今回は、精神科臨床において、体質虚弱や更年期または老年期の不眠や抑うつ、不安症状、他の不定愁訴にプラセンタと漢方薬を取り入れて治療した3症例を報告する。

Keywords プラセンタ、気血双補剤、不眠、グラウンディング

はじめに

17世紀、朝鮮の許浚によって執筆された「東医宝鑑」は、医学書の中で初めて世界記録遺産に登録された本である。東医宝鑑の神門編に紫河車、つまりヒトの胎盤(プラセンタ)の効能について次のような記述がある。「即人胎衣也。主癲狂 健忘怔忡 失志 及恍惚 驚怖 心神不守 多言不定。大能安心養血 定神 蒸熟入藥 丸服 或蒸熟單服之 亦佳(精神病、健忘症、不安、動悸、失神、精神朦朧、恐怖症、せん妄症状などを治療する)」すなわち、心を落ち着かせ、血を補い精神を安静させるとして、現代の精神科領域の疾患に使われていた。その飲み方については他の薬に入れて飲んでも、胎盤単独で飲んでもよいと書かれている¹⁾。また、同書の虚勞門編には「痰と咳、体重減少と潮熱と冷汗など消耗性疾患の症状を治療する薬剤」として記述されている²⁾。東医宝鑑は今も韓国の漢方医学、つまり韓方医学に影響を与えており、胎盤は精神神経科の諸疾患や消耗性慢性疾患、更年期障害の気血双補剤として使われている。胎盤はヒト胎盤や豚胎盤などが使われており、飲み薬だけではなく、ヒト胎盤は鍼治療の一種である薬鍼(水鍼)として、皮下に胎盤を注射する治療も行われている。精神科領域ではKangらは不眠治療に胎盤の薬鍼治療の効果を報告しており³⁾、他にも冷え症の治療効果も認められている⁴⁾。筆者も精神科臨床において体質虚弱や更年期または老年期の不眠や抑うつ、不安症状、他の不定愁訴にプラセンタを取り入れて治療している。その中の3症例を報告する。

症例1 73歳 女性

【主 訴】 不眠**【現病歴】** X-13年前、夫と死別後から不眠が続き近医内科を受診し、超短時間型睡眠薬を処方され内服していた。

X-5年から睡眠薬を内服しても2時間おきに目が覚めて浅い眠りが続く症状が出現し、近医の精神科を受診し睡眠薬と抗うつ薬を内服するも、夜間の4、5回の中途覚醒と浅眠は続いた。X-2年7月、漢方薬による不眠症治療を希望して当院を受診した。

【現 症】 身長：154cm 体重：43kg。大人しい性格。色白でやせ型。長年胃腸虚弱で市販の胃薬を内服している。夫との死別に対する心理的受容はできている。**【診立】** 気力低下、睡眠障害**【経 過】** 帰脾湯エキス顆粒5g/分2(朝夕食前)、甘麦大棗湯エキス顆粒5g/分2(夕食前・就寝前)などの漢方薬とゾルピデム10mg/分1(就寝前)を内服することで、中途覚醒は3~4時間おきとなり回数は改善したが、中途覚醒後の眠りが浅眠であることは改善しなかった。抗不安薬は、超短時間型以外には翌日中の眠気がひどく、転倒のリスクがあったため使えなかった。

X年5月からプラセンタドリンク1日1本(1本10mLあたりブタ由来プラセンタエキス純末400mg含有)を治療に取り入れた。患者には韓国で実践されているプラセンタの漢方医学的な意味と効能を説明し、不眠に対する効果が期待されることも説明した。プラセンタ使用2週間後から浅眠症状の改善が認められた。患者は「朝起きたとき、よく寝たと感じるって何年ぶりだろう」と感動していた。また、肌の張りや歯茎のやせの改善の報告もあった。患者は「50代の頃から歯茎がやせて食事の後はよく爪楊枝を使っていたが、プラセンタを飲み始めてから、歯間に爪楊枝が入らなくなるほどやせた歯茎が元に戻ってきた」と喜んでいる。また日常生活を送る上でも「元気が出て心身ともにふらふらしない、自分の中心に芯ができた気がする」という。現在はゾルピデム10mgと甘麦大棗湯エキス顆粒7.5g、プラセンタドリンク10mLで長年の不眠症を克服している。

症例2 54歳 女性

【主 訴】 不眠(浅眠)、朝起きられない、体が重い、動悸、耳鳴り、イライラ、頭痛

【現病歴】 X-1年閉経。X年1月から体のだるさを感じるようになった。徐々に外出が億劫になり家に引きこもるようになり、上記の症状が出現した。X年6月近医の精神科を受診し、双極性感情障害と診断され、バルプロ酸Na錠300mg、リスペリドン錠1.5mg、セルトラリン錠50mgを内服するも、「体の姿勢を保つことができなくなり、また頭をどっちに向けばよいのかわからない」と訴えるようになり、心配した家族がセカンドオピニオンを求めて当院受診となった。

【現 症】 身長：158cm 体重：46kg。表情は怯えており、体を保つことができず、「先生、助けてください。薬を飲んでからもっと悪くなってしまった。体がおかしくなってしまった」と訴えた。身体所見では肉眼でも確認できるほどの臍部拍動が認められた。

【診立て】 更年期特有の抑うつ、不安などの精神症状と不定愁訴

【経 過】 柴胡加竜骨牡蛎湯エキス細粒6g/分2(朝夕食前)を処方し、プラセンタドリンク1日10mLも治療に取り入れた。1ヵ月かけて前医で処方された薬物を減薬し中止した。治療開始2週間後、まず睡眠の質がよくなり、朝の抑うつ感も改善してきた。1ヵ月後からはデパートに買い物に出かけることができるようになり、不安やイライラも改善した。治療開始から5ヵ月後には、頭痛や耳鳴りなどの身体症状も改善し、漢方薬も中止、プラセンタだけ飲むようになり、治療終了となった。

症例3 54歳 女性

【主 訴】 閉経後の体のだるさ、不眠(浅眠)、動悸、肩こり、体の動揺感、体調不良に対する不安感と落ち込み、下痢

【現病歴】 X-2年に閉経してから、「何となく体がだるくて重い」と感じるようになった。また「耳の奥がふわふわする感じで、体が揺れている」症状が続くようになった。睡眠は中途覚醒があり、浅眠が続く。また体調を崩してから下痢や軟便が続く、内科、神経内科、耳鼻科を受診するも異常なしと言われ、心療内科を受診を勧められX年6月当院受診となった。患者と家族は漢方薬による治療を希望。

【現 症】 身長：154cm 体重：42kg。表情は不安げでふわふわと浮いている雰囲気。やせ型で四肢末端の冷えあり。

【診立て】 更年期の心身症状、気力低下

【経 過】 初診時から真武湯エキス細粒3g/分2(朝夕食後)と、プラセンタドリンク1日10mLを取り入れて治療開始となった。1週間後の受診で早くも体の動揺感と下痢、浅眠に改善傾向が認められた。「ふわふわ感が改善し、体に芯ができてきている」との報告あり。2ヵ月後には上記の症状は改善し、体調不良に対する不安や落ちこみもなくなってきた。真武湯を中止し、その後は肩こりに加味逍遙散エキス細粒6g/分2(朝夕食後)で症状は改善しており、現在はプラセンタドリンクだけ、疲れたときは毎日1本飲み、心身ともに余裕があるときは2日おきに1本飲みながら体調を維持している。

おわりに

気力低下、虚弱体質をベースにした老年期不眠症や更年期障害の心身症状の治療にプラセンタと漢方薬を取り入れることで顕著な症状改善を経験した。プラセンタの成分中のアミノ酸のグリシンには、睡眠の質を高める効果があることが知られているが⁵⁾、プラセンタのぐっすり眠れる力を与えてくれる気血双補の効能の方が不眠症状の改善につながると思われる。とりわけ気力低下、虚弱体質に伴う浅眠に対する治療効果には患者も驚きを隠せないこともあった。逆に体力がしっかりある実証の人が美容のためにプラセンタを飲み始めて、「頭が興奮したようでなかなか眠れなかった」ケースも経験した。

プラセンタのもう一つの効能は、これまで筆者の多くの患者から報告があった「体にも心にも中心ができており、そのなかに芯がある。ふわふわしない。まっすぐ立てる」などグラウンディング*1やセンタリング*2の感覚を獲得できることである。プラセンタはまさに心身一如、心と身体を両方補い、元気にする力のある薬剤だと思う。

- *1 地に足をつけて現実を生きること
- *2 心身のバランスが取れている状態

【参考文献】

- 1) Hur Jun (許浚) : Donguibogam (東医宝鑑) . Namsandang (南山堂) , Seoul: 105, 2007
- 2) Hur Jun (許浚) : Donguibogam (東医宝鑑) . Namsandang (南山堂) , Seoul: 456, 2007
- 3) Kang HW, et al.: The case of regulation of Insomnia with Jahageo Herbal acupuncture. J Oriental Neuropsychiatry 14: 155-160, 2003
- 4) Jang SH, et al.: A Case Report of Cold Sensitivity of Hand by Korean Medical Treatment with Hominis Placenta Pharmacopuncture at LI4 and LI10. Korean J Acupuncture 31: 240-246, 2014
- 5) Yamadera W, et al.: Glycine ingestion improves subjective sleep quality in human volunteers, correlating with polysomnographic changes. Sleep Biol Rhythm 5: 126-131, 2007